

"Always On Your Side"

～「個」が織り成す  
ケータイライフシーンのいつもそばに

2007年4月期 中間決算説明資料 2006.12.12

**ZAPPALLAS**

**株式会社ザッパラス**

東京証券取引所マザーズ :3770

<b>Chapter 1</b>	<b>2007年4月期 第2四半期決算の概況</b>	<b>2</b>
<b>Chapter 2</b>	<b>セグメント別業績の概況</b>	<b>9</b>
<b>Chapter 3</b>	<b>2007年4月期 中間決算の概況</b>	<b>15</b>

# Chapter 1

---

## 2007年4月期 第2四半期決算の概況

---

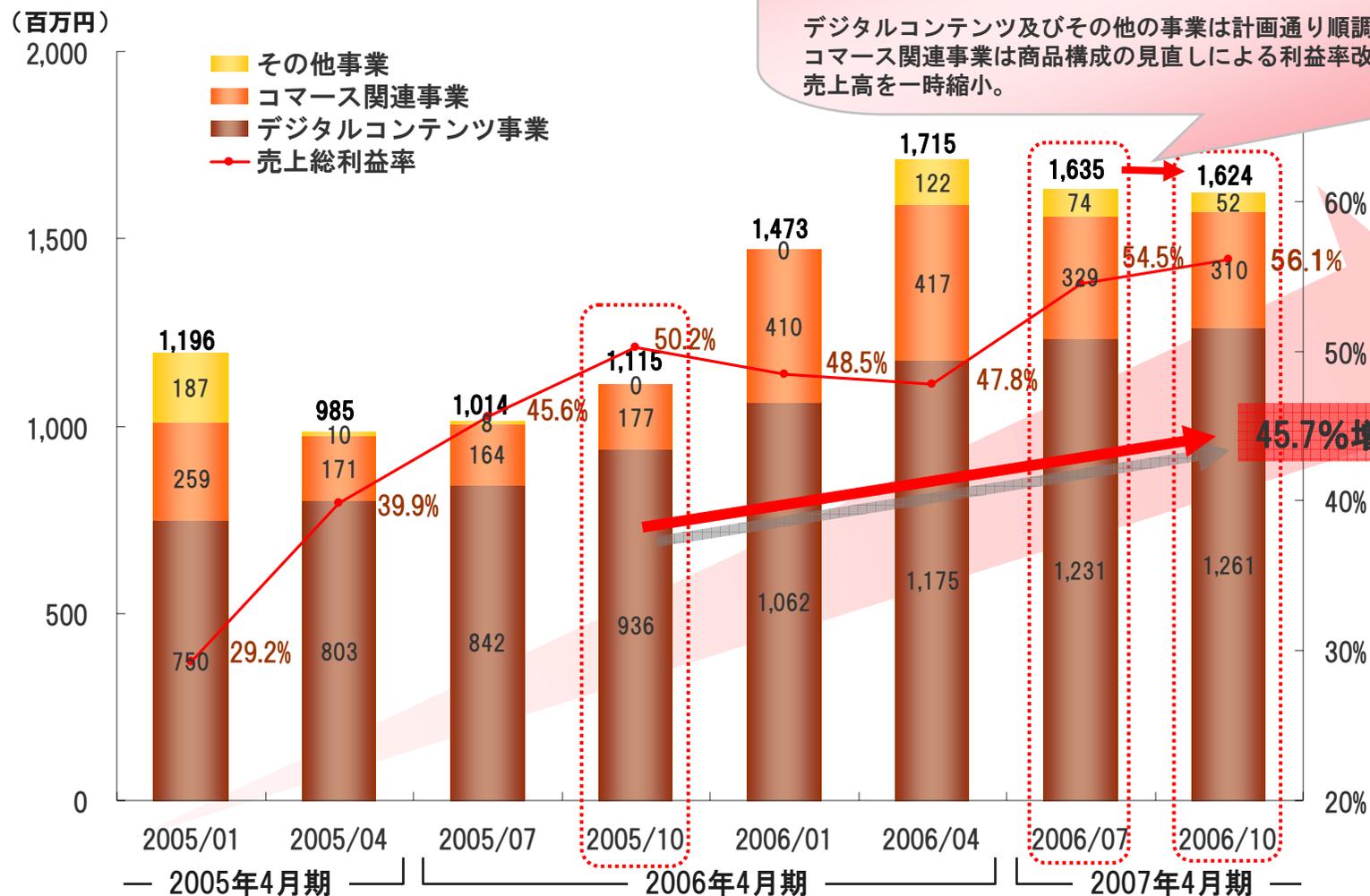
# 連結売上高の推移

当第2四半期の売上高は1,624百万円。  
前年同期比45.7%増加。  
売上総利益率は前1Qと比較し1.6ポイント上昇。

## ■前期比とのセグメント別比較

デジタルコンテンツ	+30百万円
コマース関連	△19百万円
その他	△22百万円
合計	△11百万円

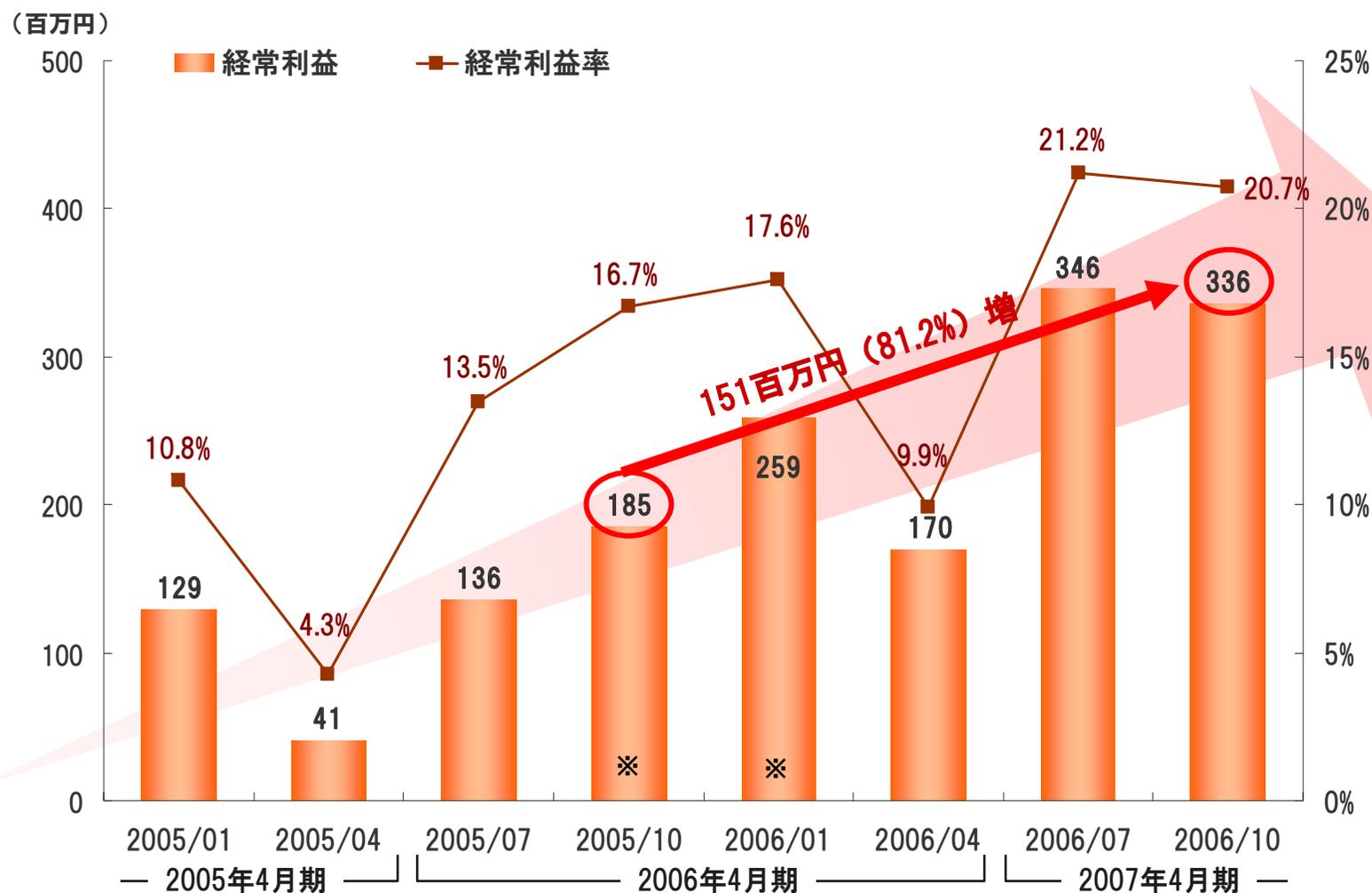
デジタルコンテンツ及びその他の事業は計画通り順調に推移。  
コマース関連事業は商品構成の見直しによる利益率改善のため、  
売上高を一時縮小。



※ 2005/10期までは単体決算、2006/01以降は連結決算となっております。

# 連結経常利益の推移

前年同期比+81.2%の増益の336百万円を計上。\*  
前1Q対比では0.5ポイント減少しているが、採用費など一時的なコストの発生のため。



\* 2005/10期までは単体決算、2006/01以降は連結決算となっております。

# 2007年4月期 第2四半期 連結損益計算書

前年同期と比較し、売上高+45.7%、営業利益82.1%の増収増益となる。\*

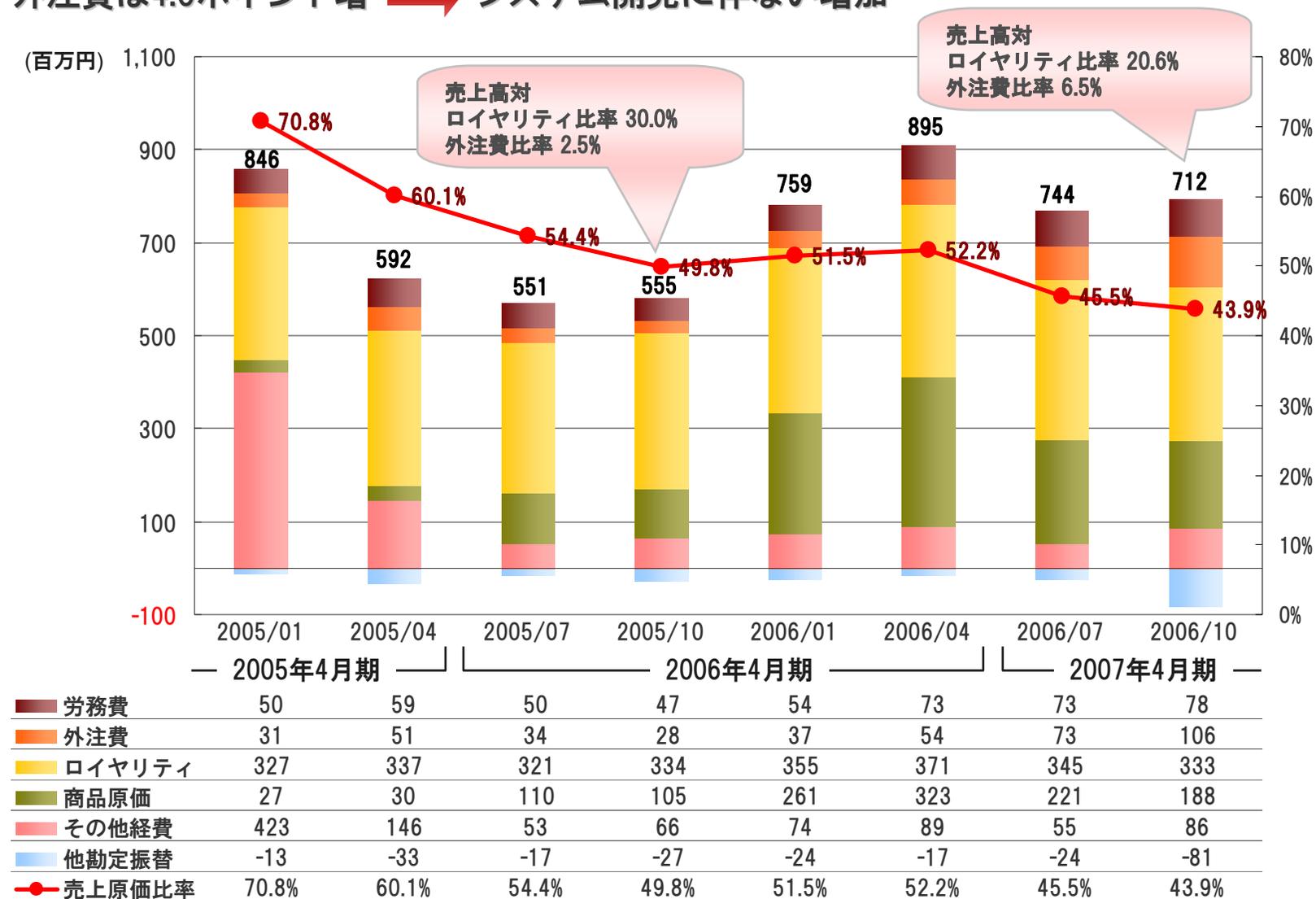
(百万円)

	2007年4月期 2Q		2006年4月期 2Q		増減率		2007年4月期 1Q	
	金額	(%)	金額	(%)	(%)	ポイント	金額	(%)
売上高	1,624	100.0	1,115	100.0	45.7	—	1,635	100.0
売上総利益	911	56.1	559	50.2	62.8	5.9 pts	890	54.5
販売管理費	574	35.3	374	33.6	53.2	1.7 pts	543	33.3
営業利益	337	20.8	185	16.6	82.1	4.2 pts	346	21.2
経常利益	336	20.7	185	16.7	81.2	4.1 pts	346	21.2
当期純利益	184	11.4	111	10.0	64.8	1.3 pts	172	10.6

\* 2006年4月期2Qは単体決算、2007年4月期1Q及び2Qは連結決算となっております。

# 連結売上原価の推移

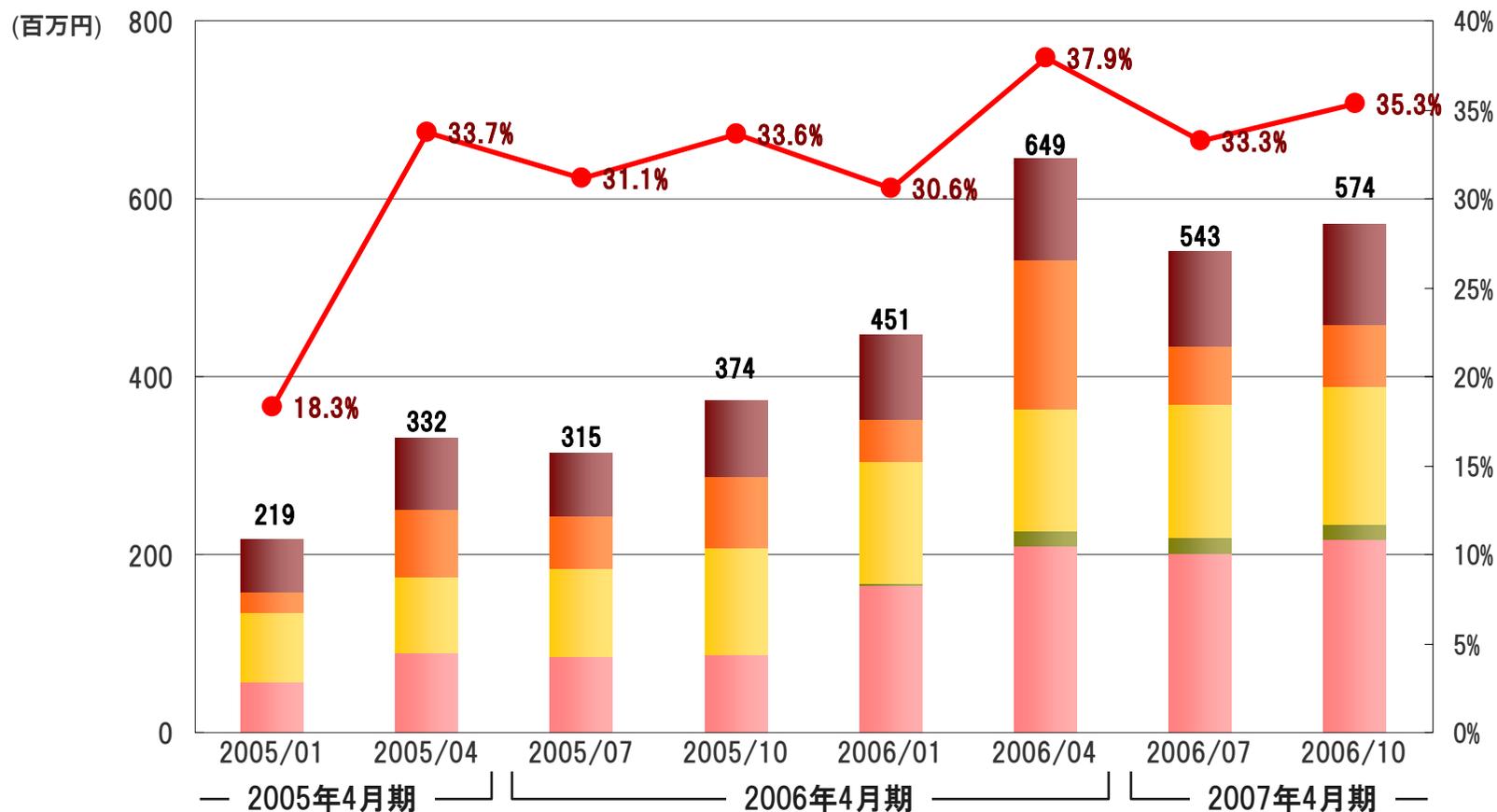
前年同期と比較し、ロイヤリティの対売上高比率が9.4ポイント減。  
 外注費は4.0ポイント増 → システム開発に伴ない増加



※ 2005/10期までは単体決算、2006/01以降は連結決算となっております。

# 連結販売管理費の推移

主な費目の計上額は人件費113百万円（対売上高比率7.0%）、回収代行手数料154百万円（対売上高比率9.5%）。売上高に対しほぼ横ばいで推移。

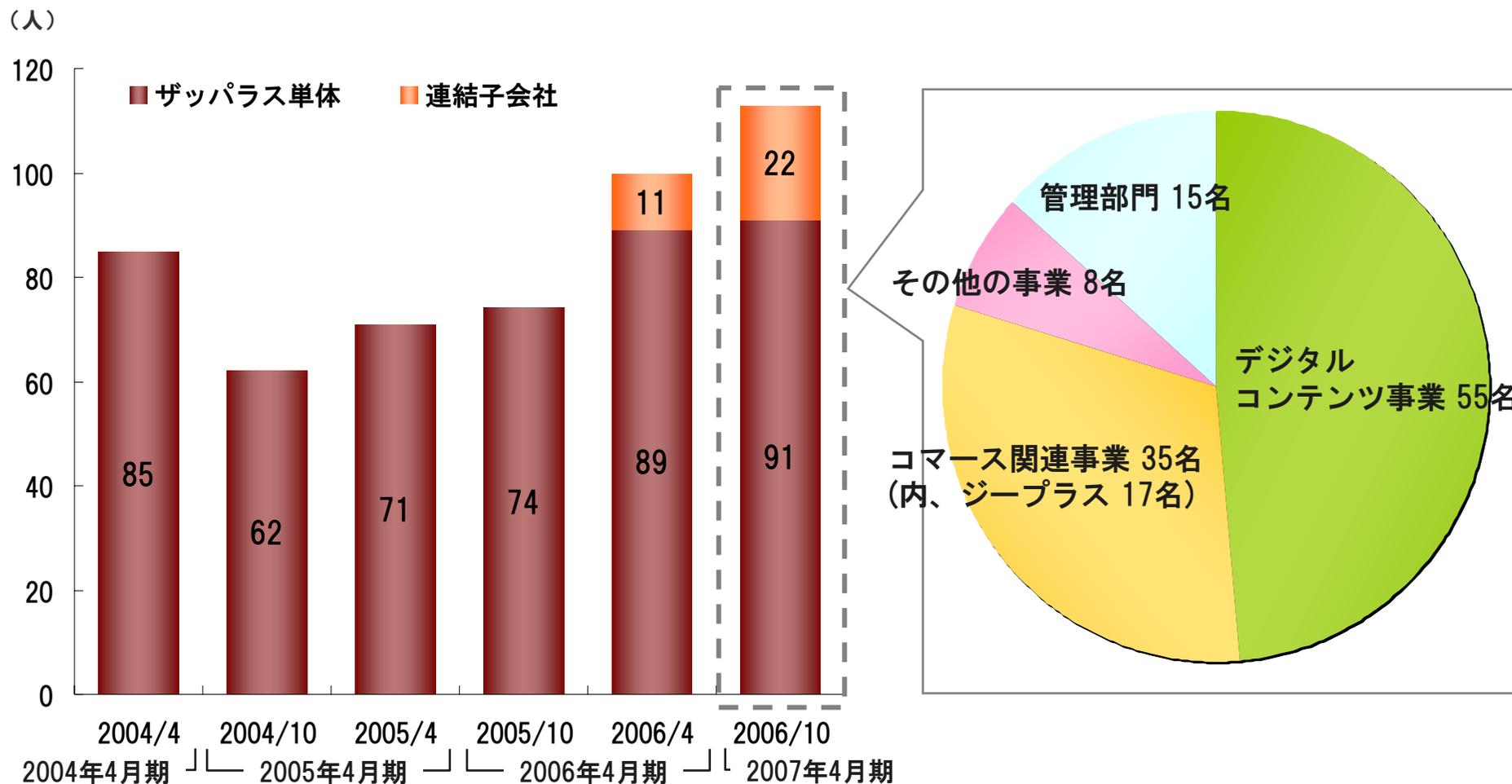


	2005年4月期			2006年4月期			2007年4月期	
■ 人件費	59	80	70	85	95	115	106	113
■ 広告宣伝費	22	76	60	80	48	168	65	71
■ 回収代行手数料	79	86	98	120	137	137	151	154
■ 連結調整勘定償却	0	0	0	0	3	17	17	17
■ その他経費	57	89	86	88	165	209	202	217
● 販売管理費比率	18.3%	33.7%	31.1%	33.6%	30.6%	37.9%	33.3%	35.3%

※ 2005/10期までは単体決算、2006/01以降は連結決算となっております。

# 連結従業員数の推移

ザッパラスの従業員数は、ほぼ同水準で推移している。  
 ジープラスにおいては携帯電話販売ショップの新規出店に伴ない店舗販売員の増員を行った。



※ 臨時雇用従業員は除く



## Chapter 2

---

# セグメント別業績の概況

---

## 2007年4月期 第2四半期 セグメント別業績

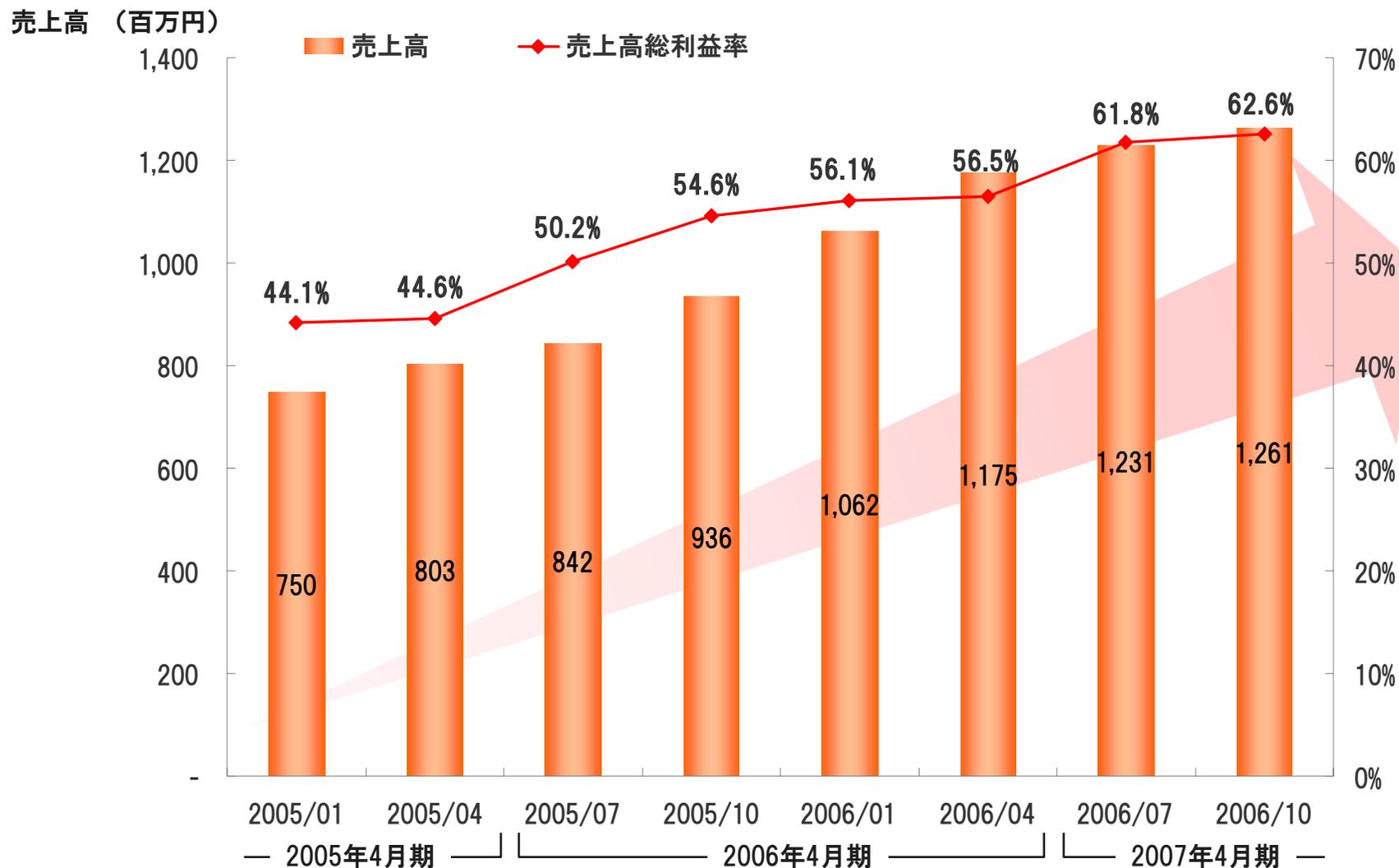
デジタルコンテンツ事業の売上総利益率の向上が継続され、営業利益も高水準で推移している。コマース関連事業は携帯販売ショップの新規出店を加速したことにより準備費用が発生しており、営業損失51百万円を計上。

(百万円)

	売上高		売上原価	売上総利益		営業利益	
	金額	構成比 (%)	金額	金額	%	金額	%
デジタルコンテンツ事業	1,261	77.7	472	789	62.6	492	39.1
コマース関連事業	310	19.1	213	96	31.2	▲ 51	▲ 16.7
その他の事業	52	3.2	29	22	43.0	▲ 3	▲ 7.5
消去又は全社	—	—	—	—	—	▲ 99	—
合計	1,624	100.0	712	911	56.1	337	20.8

# 業績推移 ～デジタルコンテンツ事業

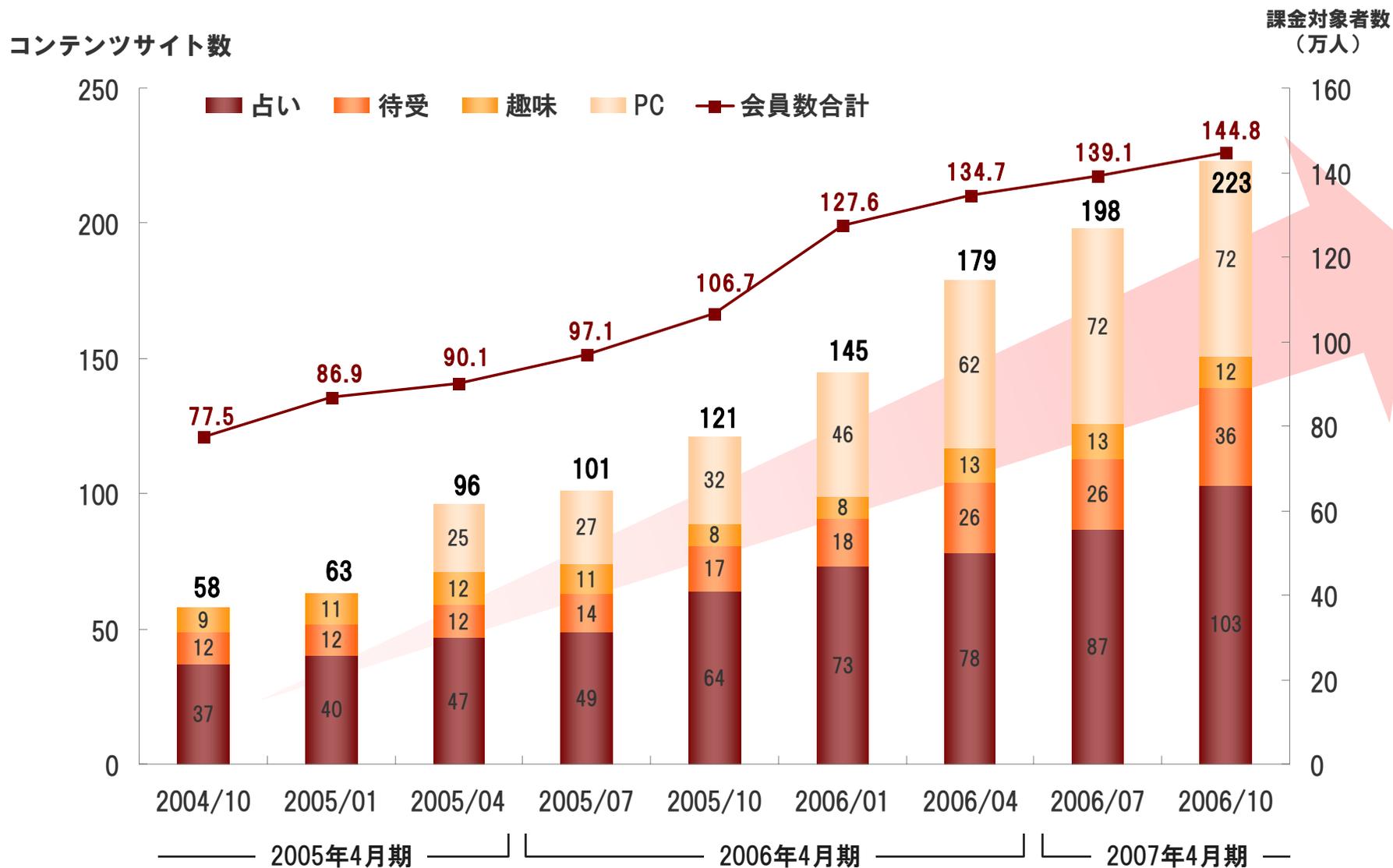
新規コンテンツ29サイトを投入（PCコンテンツ含む）し、上半期の合計投入数は52サイト。合計でモバイルコンテンツ151サイト、PCコンテンツ72サイトに。



※ 2005/10期までは単体決算、2006/01以降は連結決算となっております。

# 有料会員数の推移

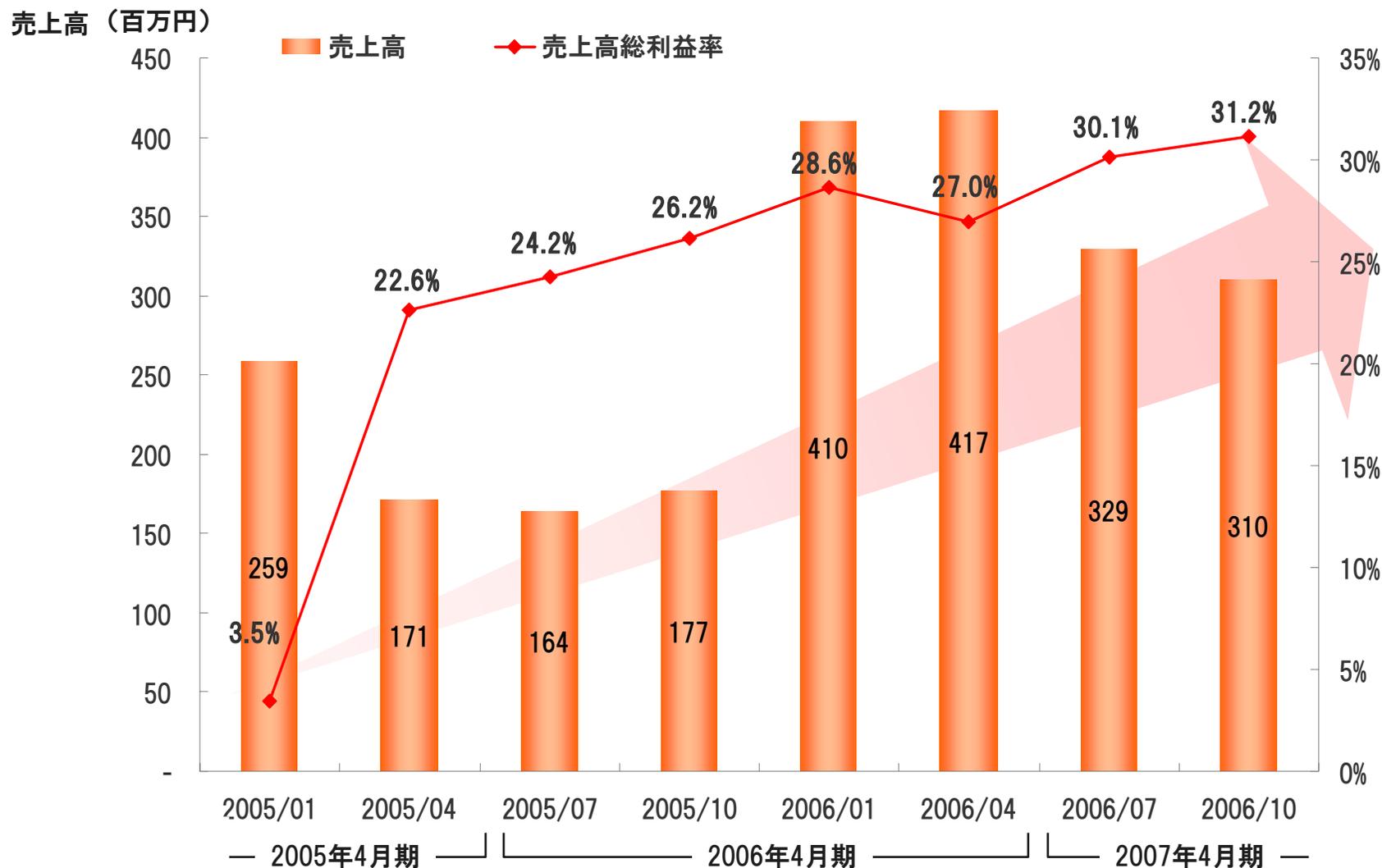
## 有料会員144.8万人の顧客に対して223サイトを提供



※ 2005/10期までは単体決算、2006/01以降は連結決算となっております。

# 業績推移 ～コマース関連事業

モバイルコマースは規模の拡大(売上)よりも利益率改善を優先し、商品構成の見直しを図る。  
携帯販売ショップはソフトバンクショップを新規で1店舗オープン。



※ 2005/10期までは単体決算、2006/01以降は連結決算となっております。

# コマース関連事業における内訳

## ● モバイルコマース事業

	1Q	→	2Q	TOPICS
売上高	148,556千円		136,876千円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・営業損失が縮小</li> <li>・商品の適正化に伴ない、在庫整理を実施 ⇒ 一部 営業外費用にて商品処分損 6.9百万円を計上</li> </ul>
営業損失	▲27,733千円		▲17,327千円	

## ● 携帯電話販売等（ジープラス）

	1Q	→	2Q	TOPICS
売上高	180,915千円		174,186千円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月よりソフトバンクショップ1店舗オープン 今後も積極的に店舗展開を推進 下半期以降の収益に寄与 出店に伴なって2Qでは営業損失を計上</li> </ul>
営業損失	▲3,630千円		▲31,478千円	

※本データは、管理費用配賦前および連結相殺前の内部資料に基づいております。



## Chapter 3

---

# 2007年4月期 中間決算の概況

---

# 2007年4月期中間 業績トピックス

## ①連結業績

売上高	3,259百万円(前年同期比53.0%増)	営業利益	683百万円(同105.6%増)
経常利益	683百万円(同112.0%増)	当期純利益	357百万円(同 80.4%増)

## ②デジタルコンテンツ事業

モバイルサイト42サイト・PCサイト10サイトを新規投入。期末サイト数223サイト  
有料コンテンツ会員数 144.8万人(前期末比 10.2万人増)  
売上高は計画通り推移し、利益は先行。下半期ではSEO対策への取り組みを強化。

## ③コマース関連事業

売上総利益率 2006年4月期通期 27.0% → 30.6% へ上昇  営業損失の縮小  
モバイルコマースにおいては商品構成を見直して収益構造を変革  
株式会社ゆこゆこと業務提携 サービス商材提供スタート

## ④その他

モバイル広告事業およびSuica.jpなどのサイト運営による売上高を126百万円計上  
株式会社アドウェイズと業務提携 アフィリエイト広告型の占い勝手サイトをスタート。

# 2007年4月期中間 連結損益計算書

売上高は前年同期（単体のみ）で+53.0%増収。当期はのれん償却額を計上しながらも、営業利益で+105.6%の増益を達成。

（百万円）

	2007年4月期 2Q		2006年4月期 2Q		増減率
	金額	(%)	金額	(%)	
売上高	3,259	100.0	2,129	100.0	53.0%
売上総利益	1,801	55.3	1,022	48.0	76.2%
販売費及び一般管理費	1,118	34.3	690	32.4	62.0%
営業利益	683	21.0	332	15.6	105.6%
経常利益	683	21.0	322	15.1	112.0%
当期純利益	357	11.0	198	9.3	80.4%

※ 2006/4期2Qは単体決算、2007/4月期2Qは連結決算となっております。

## 2007年4月期中間 連結貸借対照表

本社移転に伴い、有形固定資産が増加。流動資産の主な増加要因は現金の増加及び携帯電話ショップの新規オープンに伴うたな卸資産の増加分。

(百万円)

	2006/10末		2006/4末		増減額
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	
流動資産	3,537	71.2	3,426	73.0	110
固定資産	1,434	28.8	1,270	27.0	163
有形固定資産	178	3.6	83	1.8	95
無形固定資産	984	19.8	919	19.6	64
連結調整勘定	828	16.7	819	17.5	9
その他	155	3.1	99	2.1	55
投資その他の資産	271	5.5	267	5.7	3
<b>資産合計</b>	<b>4,971</b>	<b>100.0</b>	<b>4,697</b>	<b>100.0</b>	<b>274</b>
負債合計	1,204	24.2	1,192	25.4	12
資本合計	3,766	75.8	3,504	74.6	262
<b>負債・資本合計</b>	<b>4,971</b>	<b>100.0</b>	<b>4,697</b>	<b>100.0</b>	<b>274</b>

## 2007年4月期中間 キャッシュフロー計算書

法人税等や配当金の支払いによる支出が発生したが、税金等調整前中間純利益646百万円の計上により当期首と比較し資金が45百万円増加。

(百万円)

	2007年4月期 中間	2006年4月期 通期	主な増減要因
営業活動による キャッシュフロー	346	473	税金等調整前中間純利益 646百万円 法人税等の支払額 ▲259百万円
投資活動による キャッシュフロー	▲184	▲1,125	有形固定資産の取得 ▲120百万円 無形固定資産の取得 ▲16百万円
財務活動による キャッシュフロー	▲116	1,533	配当金の支払 ▲123百万円
現金及び現金 同等物の増減	45	882	
現金及び現金 同等物の期末残高	2,015	1,970	

## トピックス①

### サービス商材の提供スタート

株式会社ゆこゆことの業務提携により、無料温泉情報誌「名湯ゆこゆこ」をベースにした公式モバイルコンテンツを11月15日にiモード向けにスタート

- ・ ザッパラス 公式コンテンツの制作・運営
- ・ ゆこゆこ 宿泊予約の受付と提携施設への送客



### 勝手サイトによる広告収益モデルスタート

株式会社アドウェイズとの業務提携により、アフィリエイト広告型の勝手サイト『占いマカロン』を11月15日にスタート。今後も引き続きモバイル広告事業を強化。



### Suica.jp運営受託の新たなビジネス展開

引き続きSuica.jpサイトの運営を受託することにより蓄積したノウハウをベースに、新たなビジネスの展開へ。

## トピックス② ～ 連結子会社2社の概況

(千円)

	売上高	営業利益	のれん 償却額
株式会社ジープラス	355,102	▲35,108	6,633
株式会社アレス・ アンド・マーキュリー	141,404	51,835	28,772

※連結相殺前の内部資料に基づいております。

# 2007年4月期下半期での施策

## デジタルコンテンツ

- ✓ 新規コンテンツの投入計画 ⇒ 下期56サイト
- ✓ SEO対策への取り組み強化

## モバイルコマース

- ✓ 営業損失を縮小 ⇒ 単月黒字化を目指す。
- ✓ サービス商材メニューの充実

## 携帯電話販売

- ✓ 下期、新規4店舗出店を計画。
- ✓ 今期は出店に伴う営業損失を見込む。
- ✓ 来期以降の収益基盤を構築

## モバイル広告

- ✓ 他社アライアンスによるアフィリエイト広告事業の推進。
- ✓ 勝手サイトを利用したモバイル広告ビジネスの展開。
- ✓ 新しいメディアの開発の推進。

## 業績見通しと進捗

当社グループの業績は当初の計画に対し、先行して順調に推移。  
下半期では、当初計画＋来期以降の拡大に向けた販売拡大施策費用の投入及び今後の事業展開に必要な投資について慎重に検討を行う。

(百万円)

	2007年4月期 中間期		2007年4月期 通期予想		進捗率
	金額	(%)	金額	(%)	
売上高	3,259	100.0	6,809	100.0	47.9
経常利益	683	21.0	1,005	14.8	68.1
当期純利益	357	11.0	547	8.0	65.3

本資料に含まれている業績予想等、過去の実績以外の記述については、発表日において当社が社内機密的に設定している経営計画ならびに入手可能な情報、将来の業績に与える不確実な要因に係る仮定等を前提としております。実際の業績は、今後の様々な要因によって異なる可能性があります。